

新しい図書館の施設及び サービスに関する報告書



～新しい図書館はみんなの道しるべ～

平成30年10月

白馬村図書館施設検討委員会

<目 次>

1. はじめに.....	1
2. 図書館の現状と課題.....	2
(1) 図書館の現状.....	2
(2) 図書館の課題.....	3
3. ワークショップの開催.....	3
4. 新図書館建設の基本的な考え方.....	3
(1) 誰でも利用しやすい図書館.....	3
(2) 白馬らしさを感じられる図書館.....	4
(3) 飲食について.....	4
(4) その他.....	4
5. 図書館のコンセプト.....	4
6. 図書館サービス.....	5
(1) 館内事業.....	5
(2) 館外事業.....	5
(3) 読書教育事業.....	5
(4) 広報事業.....	5
(5) 学校との連携.....	6
7. 必要な施設と規模.....	6
(1) 新図書館に必要とする施設.....	6
(2) 規模など.....	7
8. 建設に向けて留意すべき点.....	8
9. その他.....	9

1. はじめに

白馬村図書館は、明治42年に現在の白馬北小学校に開設されたのが始まりでした。その後公共施設の空きスペースを有効活用しながら何度も場所を移動し、平成10年に現在の場所に移りました。現在図書館のある建物も、もともと法務局として利用していたものを、払い下げによって利用することとなりました。そのため図書館として利用するには規模も小さく、書架スペースも制限されるため、運営するにあたって十分なサービスの提供ができませんでした。そのため、図書館の利用者からもっと広い図書館にしてほしい、もっと本を増やしてほしいなどといった要望が以前から多くありました。

このような状況から、村では村民の要望に応えるべく、新図書館建設についてまちづくりの基本方針を示す「白馬村第5次総合計画」並びに「白馬村総合戦略」に位置付け、調査・検討を行うこととしました。また、平成28年4月に白馬村教育委員会が策定した「白馬村図書館基本計画」にも新図書館建設について調査・検討を行うと記載されています。さらに公共施設等の老朽化対策が全国的に問題となっている中で、公共施設等の今後のあり方について平成29年3月に村が策定した「白馬村公共施設等総合管理計画」においては、新図書館建設は村の負担が大きいため、子育て施設や社会教育施設などの他の施設との複合化を検討する必要があるとされています。このことから村では、図書館を含めた複合施設の建設について調査・検討することとなりました。これを受けて白馬村教育委員会は、新たな図書館のあり方や施設整備について調査・検討するため、平成29年7月に白馬村図書館施設検討委員会を立ち上げました。この検討委員会は白馬村教育委員会の諮問機関で、学識経験者、幼児・児童・生徒の保護者代表、学校教育関係者など15名で構成されました。

検討委員会では、新図書館を造るにあたってより多くの村民に利用していただく必要があることから、まず村民が望む図書館像を知るために、可能な限り多くの意見を集める必要があると考えました。その方法として、ワークショップの開催やアンケートの実施、文化祭での意見の書き込みコーナーの設置、知人など委員の周辺の人々の意見など、様々な形で意見を集めることとしました。その結果、従来型の図書館にとらわれない、あらゆる年齢層の人が気軽に利用でき、ゆっくり時間を過ごせる”場”となることを求める意見が多く寄せられました。その点を踏まえ、白馬らしい特徴のある図書館とは何かを議論し、山、自然、外国人に象徴される多様性というキーワードを中心に据えて考える方向を見出しました。白馬のことをあらゆる面から知ることができ、関連する情報を提供できる”場”となることを核に据えることとしました。

新図書館を物心両面で利用しやすい、村民の道標的な存在として位置付け、村民ならば馴染みのある”ケルン”という言葉に象徴させました。平穏な時には休憩場所や目標となり、迷った時にはとても頼りになる存在、そんな図書館となってほしいと願い、目指す図書館像をここにまとめましたので報告いたします。

2. 図書館の現状と課題

(1) 図書館の現状

【施設の状況】

開設：平成10年10月8日

施設：昭和62年12月10日築 鉄筋コンクリート造
1階 285.23 m² 2階 188.58 m² 計 473.81 m²
うち、図書館専有面積 398.2 m²

【職員の状況】

職員数：4名

兼任1名（図書館長兼生涯学習スポーツ課長、司書資格なし）

嘱託職員2名（司書資格あり）

臨時職員1名（司書資格あり）（※平成30年10月1日現在）

【サービスの状況】

開館時間：午前9時から午後6時まで

休館日：毎週月曜日、祝日、毎月最終金曜日（館内整理日）、その他（年末年始、蔵書点検期間）

貸出冊数：ひとり10点（うち視聴覚資料3点）まで

貸出期間：3週間

団体貸出：100冊まで60日間（村内の団体のみ）

図書等：蔵書冊数 53,421 冊（視聴覚資料及び雑誌を含む）

開架図書 24,573 冊、視聴覚資料DVD 339 点、CD 64 点

（※平成30年3月31日現在）

新聞：朝日新聞・信濃毎日新聞・大糸タイムス

その他：利用者開放用インターネット端末 1台

館内閲覧用視聴覚資料再生プレーヤー 3台

大北地域の図書館の相互利用（どの図書館でも返却可能）

レファレンスサービス（※利用者の求める情報を図書館が提供すること）

インターネットでの予約サービス

【利用状況】

登録者数：2,546 人（※平成30年3月31日現在）

来館者数：13,811 人（※平成29年度実績）

貸出冊数：24,813 冊（※平成29年度実績）

(2) 図書館の課題

【施設の課題】

- ・施設や設備の老朽化
- ・読書スペースが狭い
- ・車いすで館内を移動できない
- ・図書の収納スペースがない
- ・駐車場が狭い

【職員の課題】

- ・専任の館長がない
- ・職員が1人となる時間帯がある

【サービスの課題】

- ・本が少ない
- ・雑誌の購入がない
- ・読書会や講座の開催がない
- ・Wi-Fiがない
- ・新聞が少ない

3. ワークショップの開催

白馬中学生、白馬高校生や一般の方を対象にワークショップを開催しました。ワークショップでは様々な提案が出されました。意見の多かった提案内容については次のとおりです。

- ・飲食できる場所がある
- ・マンガ
- ・ゆったりしたスペース
- ・畳の部屋
- ・みんなで勉強できるスペース
- ・山をテーマにしたコーナー
- ・シアタールームがある
- ・騒げる場所
- ・幼児が遊べる場所
- ・辞書や教科書がある
- ・村の歴史資料がある
- ・子どもの居場所
- ・山が見える窓
- ・本の充実
- ・雑誌がたくさんある
- ・外国人との交流
- ・授乳室
- ・Wi-Fi
- ・自習室
- ・公園がある
- ・おむつ替えスペース
- ・カフェ

4. 新図書館建設の基本的な考え方

(1) 誰でも利用しやすい図書館

- ① 幼児から高齢者まで、あらゆる人々が支障なく利用できるようにすること。
- ② 白馬村に居住する外国人や観光客にも利用しやすいように、外国語資料の充実を図ること。
- ③ ユニバーサルデザインに基づく館内外整備とし、利用者が普段着で土足のまま気軽に入出りできるようにすること。
- ④ 内部は明るくて、夏は涼しく冬は暖かく、居心地が良い雰囲気であること。
- ⑤ 単純で明快な平面とし、見通しがきいて、自分のいるところや行きたいところが分かりやすいこと。

- ⑥音に対してある程度寛容な空間を多くし、吸音効果のある素材などを検討すること。一方で静かに学習や読書ができる場所も確保すること。
- ⑦Wi-Fiを設置すること。
- ⑧融雪設備等、雪対策がしっかりしていること。
- ⑨駐車場が広いこと。
- ⑩移動手段のない方も利用できるよう送迎バス等の導入を検討すること。
- ⑪開館時間については、利用者の動向に柔軟に対応できるようにすること。

(2) 白馬らしさが感じられる図書館

- ①景観がよく、館内から白馬三山が見渡せることができ、自然に囲まれた場所にあること。
- ②木のぬくもりが感じられる建物であること。
- ③白馬の文化や歴史を知ることができる資料やコーナーを設置し、外国人や観光客も利用しやすいように工夫すること。

(3) 飲食について

- ①飲食できるエリアは従来の考え方に捉われず検討し、それに対応できる備品や床構造とすること。
- ②飲食物の提供については、費用や保守等の負担が少なくなるように考慮すること。また、障害者施設など民間委託も検討すること。

(4) その他

- ①職員にとって効率よく作業ができ、働きやすい快適な環境となっていること。
- ②資料の増加や新しいサービスシステムの導入に対応できるように、固定壁・柱は極力少なかった構造とすること。
- ③施設を維持する上で、資源の浪費を減らし省エネルギー化を図ること。太陽光・バイオマスなどの持続可能な循環型エネルギーシステムの導入を検討すること。
- ④人的充実を図るため、専門職員を増員し、職員の資質の向上に努めるとともに、職員をサポートするボランティア等の配置なども検討すること。

5. 図書館のコンセプト

白馬村は世界に誇れる雄大な白馬連山に抱かれた山岳資源を所有しており、毎年大勢の登山客やスキー・スノーボード客が訪れています。検討委員会では、白馬村の観光のメインとなる「山岳」ということばからコンセプトとなるものを検討することとし、図書館が村民一人ひとりの道標となるようにと願い、登山者の道標となる「ケルン」をコンセプトとしました。

図書館が、そこにある資料や集まっている人びとからの情報や刺激によって、日々の仕事や生活の中で抱えた課題解決の一助となったり、とりあえずそこを目指して立ち寄るだけでも何かを得られるような「街中のケルン」としての存在となるよう期待します。

6. 図書館サービス

現在の図書館は規模が小さいために十分なサービスが行えているとは言えない状況でした。新たな図書館が建設されれば、より充実したサービスが提供できることとなるため、これまで行っていたサービスをさらに充実させる必要があります。

(1) 館内事業

○資料管理

図書資料の購入及び除籍を計画的に進め、的確な資料管理を行うとともに、利用者にとって魅力的で使いやすい書架づくりを行うこと。

○資料の収集

村民の生涯学習の多様化による資料要求に応えるために、より新鮮で魅力のある資料を揃え、充実した図書館を目指し、効率的に図書館資料等の収集を行うこと。

また、白馬村に関するあらゆる資料等の収集と保存管理を行うこと。

○資料の貸出

予約、リクエストサービスを重視し、県立図書館を中心に県内の公立図書館と連携を行い、相互貸借サービスを利用して村民の要求に応えること。

○レファレンスサービス

利用者の課題解決のための相談に対応するために、参考図書の整備や職員の技術向上を図ること。また、県立図書館と連携を行い、レファレンスサービスを充実させること。

(2) 館外事業

○団体貸出

教育関係施設、福祉施設、ボランティアなどの団体やグループに積極的に団体貸出を推進するなど、読書支援を行うこと。

○出張貸出事業

図書館から離れている地域の方にも資料の貸出が行えるよう出張による貸出を行うこと。

(3) 読書教育事業

○定例事業

本の読み聞かせなどを通じて、親子で本と親しみ、読書習慣のきっかけを作ること。

○季節事業

幼児から一般を対象にした様々な講座や講演会、イベント等を開催し、図書館へ足を運ぶきっかけを多く作ること。

(4) 広報事業

ケーブルテレビ、広報紙やインターネットなどあらゆる媒体を利用して図書館の情報や事業について広報を行うこと。

(5) 学校との連携

職員や資料を有効活用し、学校図書館との連携を図ること。

7. 必要な施設と規模

(1) 新図書館に必要とする施設

施設としては以下のものが必要であると考えます。

ゾーン	スペース	諸 室
利用者のためのゾーン	導入エリア	エントランス 飲食可能なラウンジスペース 展示コーナー 映像コーナー
	交流・学習エリア	多目的室（プロジェクター・スクリーン・鏡・可動椅子付） 学習室（個人用・グループ用） 視聴覚資料閲覧スペース インターネットスペース
	白馬エリア	地域資料閲覧コーナー
	開架エリア	一般開架 雑誌コーナー 読書スペース（デッキエリア含む） 資料検索スペース
	幼児・児童エリア	児童開架 子育て支援情報コーナー キッズルーム（おはなしの部屋） 授乳室・オムツ替えスペース
	共用エリア	WC 倉庫 階段・エレベーター
	外部エリア	公園・憩いのスペース
管理運営のためのゾーン	サービスデスク	貸出・返却受付 レファレンスコーナー
	事務・作業エリア	事務・作業室
	福利厚生エリア	休憩室・更衣室
保存のためのゾーン	保存エリア	書庫 歴史資料等保管スペース 作業スペース

(2) 規模など

○立地条件

検討委員会で議論する中で、立地の条件として以下の点を考慮すべきであるという意見が出ました。

- ① 自然に囲まれており、白馬三山が展望できる場所にある
- ② 駅周辺など学校の近くなど利用しやすい場所にある
- ③ 遠方の人が訪れやすく、車などで立ち寄りやすい場所にある
- ④ 近接した土地に余裕がある

その他、財政的な負担やスケジュールを考慮し、村が現在保有している土地を有効的に活用できないか検討すること。

○建設場所

検討委員会では、前項に記載した立地条件の大半をクリアし、木流公園に隣接、周辺に拡張可能な用地を有し、役場や白馬北小学校も近いことから、以下の場所を候補地として推奨します。ただし、敷地に面した道路が狭いことから、大型バスが入れるよう道路整備を行い、施設規模に応じて周辺の土地の取得も検討すること。

また、建設に当たっては、現有する子育て支援ルームとの調整を行うこととし、木流公園の敷地も有効利用すること。

現白馬村子育て支援ルーム敷地（地番：白馬村大字北城6938番地ほか）

※赤枠が村有地（6938番地面積4249.89㎡、6940番地1面積293㎡）



○規模、収容能力、数値目標、職員数など

規模等については以下の計算方法において算出されたものを指標とし、検討することを推奨します。

人口	延べ床面積	蔵書冊数	開架冊数	職員数
8,900 人	1,180 m ²	74,470 冊	54,284 冊	7 人

※この数値は「公立図書館の任務と目標」（日本図書館協会図書館政策特別委員会 2004 年 3 月改訂）の計算方法にて算出した。この計算は人口を基としている。

※人口は、平成 30 年 4 月 1 日現在の村人口 8,947 人を 100 人未満切捨てた。

○駐車場

今後、村民が集うイベントを開催するなどして適宜利用が見込まれるため、概ね 30 台程度駐車が可能であることを条件とする。また駐輪場も設けること。

8. 建設に向けて留意すべき点

検討委員会では以下の点について十分に留意し、建設に向けて進めていくように提言します。

- ①子連れでも気兼ねなく立ち寄れるように配慮し、子どもの一時預かり機能などを有する施設も同時に整備すること。
- ②子どもを見ながら気軽に利用でき、また高齢者にも利用しやすいカフェを施設内もしくは近接した場所への設置を検討すること。
- ③ゆとりあるスペースを確保し、利用者にとって居心地のよい空間づくりを行うこと。
- ④建物はデザインに偏らず、維持管理や安全に配慮したものとすること。また、白馬三山が見渡せるなど自然を感じられるような設計とすること。
- ⑤多目的室など日常的に使用しない場合は一般に開放すること。
- ⑥開架図書のスペースで閉架図書リストも一覧できるように工夫すること。
- ⑦誰もが気軽に立ち寄れる場所にするために、これまで図書館に足を向けなかった人のある種障害となっていたと考えられる「静かに学習する場所」というイメージを払拭する必要がある。そのために、既成の概念にとらわれることなく、音・飲食・遊びといった点に配慮し、全体の設計を行うと共に、運営にもあたること。

9. その他

○委員名簿

番号	氏 名		選出区分	備 考
	平成29年度	平成30年度		
1	富山 正明		社会教育委員会委員長	委員長
2	小林 英雄		図書館協議会会長	副委員長
3	太田 史彦		学識経験者	
4	塩島 弘之		学識経験者	
5	内山 葵	石山麻衣子	しろうま保育園保護者代表	
6	宗川 尚美	中澤小百合	白馬幼稚園保護者代表	
7	太田 雄介	武藤 慶太	白馬北小学校 PTA 会長	
8	太田 和也	渡部 虎史	白馬南小学校 PTA 会長	
9	藤生 誠	太田 具英	白馬中学校 PTA 会長	
10	高橋いづみ	木下 政道	白馬北小学校校長	
11	北沢 芳洋	倉科 浩美	白馬南小学校校長	
12	田中 守		白馬中学校校長	
13	小川由美子		公募委員	
14	長島 律子		公募委員	
15	高橋 英子		公募委員	